

『闇は光に勝たなかった』

ヨハネによる福音書 1 章 5 節

朝岡勝（日本同盟基督教団・徳丸町キリスト教会牧師）

今晚、このようにして多くの主にある兄弟姉妹の皆さんと、一つの志のもとに集められて、時を過ごすことのできる不思議さと幸いを覚えます。主が私たちを集めてくださったまことに不思議な、しかし大切な集まりです。

いま、私たちは主イエス・キリストの御降誕を待ち望む待降節の第四週を過ごしています。多くの教会では、昨日、クリスマスの礼拝が献げられたことと思いますし、今週 24 日にはイヴを、そしていよいよクリスマスを迎えようとしています。この年のクリスマスを迎えるに当たり、二つのことが心に重くのしかかっています。一つは新型コロナの影響のもとで過ごしたこの一年の様々な苦悩や反省、そしてこの先の視界が開かれないことへの不安。いま一つは、それでもこうしてクリスマスを自由に祝っている時に、同じアジアにある香港の地で、自由と公正のために奮闘している主にある兄弟姉妹たち、この状況を信仰告白の事態と捉えて立ち上がっている同労者たち、またいまこの時も収監され、自由を奪われている若者たちがいるという現実です。

そのような中で、いったい私たちに何ができるのか。そして何をすべきなのか。主は私たちに何を願っておられ、何を欲しておられるのか。その一つの答えが「祈ること」です。教会はいつも祈り続けて来ました。特に困難の時には集中して祈り続けて来ました。10 月に行われた第一回には 70 名の方々が参加してくださいました。そして第二回の今日は 100 名を越える方々が祈るために集まっておられます。すごいことだと思います。また実際に香港の主にあるしもべたちの声を聴き、共に祈ることができるのも特別なことです。この後お話しくださる香港の神学者で台湾在住の孫先生に心から感謝いたします。

「祈ることしかできません」とよく耳にします。しかし私はそのたびにこう申し上げるようにしています。「しか」の祈りでなく、「こそ」の祈りをしましょう。「祈ることしかできない」のでなく、「祈ることこそしよう」と。何もできない最後の言い訳のような祈りでなく、祈ることから始まる最初の決心として祈ろうと。今晚の祈祷会もまさにそのような思いで備えられているものです。

今晚与えられている御言葉は、ヨハネ福音書 1 章 5 節です。「光は闇の中で輝いている。闇は光に勝たなかった」。今日は祈りの勧めですので、詳しい説き明かしはいたしません。ただ「光の現在形と闇の過去形」に目を留めたい。とりわけ「闇は光に勝たなかった」という、この決定的な事実を心に刻みたいのです。

確かに闇の現実が私たちを取り巻いています。香港の急激な変化を目の当たりにしながら、一つの民主主義的社会からあつという間に自由が奪われていく様を前に茫然としているというのが正直な思いです。そしてそのような現実ばかりでなく、闇の力は私たちの心

の内側を侵食してきます。それは無力感、諦め、無関心や反対、批判の声など様々な仕方で私たちが揺さぶります。私自身もそのような揺さぶりを経験してきた者の一人です。今年の7月に、松谷先生からご連絡をいただき、牧師たちで祈りの会を始めたい。その呼びかけ人の一人になってくれないかとお誘いを受けました。私は人に頼み事をすることが多いので頼まれ事もよほどのことがない限り断らないようにしており、それでよく失敗します。呼びかけ人の最初の集まりが持たれたとき、様々な教団教派に属する12名の牧師が集まりました。松谷先生だからこそ呼び集められた多彩な顔ぶれでした。自己紹介の中でそれぞれの香港との関わりが分かち合われました。私は先生方の話を聞きながら「失敗したかも？」と思いました。皆さん香港に行ったことがある。留学していた。駐在していた。現地の教会との交わりがある。親しい牧師たちがいる。そういう方々ばかり。私はというと、実はいままで香港に行ったこともないし、知り合いもない。これまで香港と聞けばブルース・リーかチョウ・ユンファか、という感じで、まったく場違いなところに来たというのが率直な思いでした。しかしそれで身を引いてしまったら、それこそ闇の力に負けてしまっていたことでしょう。分からなかったら教えてもらえばよい。知らないことは学べばよい。知り合いがいなければ出会えばよい。遅ればせながらであってもどこからでも始められることがある。この祈り会もまさにそのような場となっています。

また闇の力は私たちが時に萎えさせ、揺さぶり、諦めさせようとする。祈ったところで何が変わるというのか。自己満足にすぎないではないか。どうして香港のためだけ祈るのか。もっと祈るべき事柄があるではないか。香港のことをどれほど知っているのか。中国大陸側の事情を分かっているのか。そもそもなぜ牧師たちがこのようなことに首を突っ込むのか。それは政治的活動ではないのか。またそんなことに手を出して、興味本位のお遊びですか。等々。何かを言っては批判され、何かを言わないと非難され、何かをするとやり過ぎだと言われ、何もしないと無関心だと言われる。闇の力の恐ろしさはそういうことの繰り返しの中で私たちが底なしの深い淵の中に引きずり込んでいこうとするところにあるでしょう。闇の力を知らない無邪気さと楽観論では戦い切れないものです。むしろその闇の深さを見据え、その闇の力と向き合って立たなければならぬ。祈りの構えは戦いの姿勢です。

しかしその時に、私たちはこの闇の力がすでに圧倒的な光の勝利のもとにあることを知らされています。いまだ暗く重い闇のもとに覆われているこの世界のただ中であって、しかし神のことはこう語るのです。「光は闇の中で輝いている。闇は光に打ち勝たなかった」と。いまこの闇の力が勢いを増し、人々を、世界を、香港の社会を、教会を、主にある仲間たちを呑み込んでいこうと暗躍する闇の力の圧倒的な現実を前にして、しかし「闇は光に打ち勝たなかった」と、もう勝負はついている。もう決着はついている。そう御言葉は語る。なぜそう言えるのか。それはまことの光なるイエス・キリストが来られたからだ。そして「光は闇の中に輝いている」からだ。そう御言葉は語るのです。これがクリスマ

スが私たちにもたらした確かな希望であり、約束です。そして闇の中に光として来られた御子イエス・キリストは言われるのです。「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。私はすでに世に勝っている」(ヨハネ 16 章 33 節)。この圧倒的な勝利者イエス・キリストにあって、すでに勝負はついている。闇は光に打ち勝たなかった。この確信によって祈りの手を挙げたいと願います。いま文字通り闇の中にあり、囚われの身となっている香港の愛する方々に主の御手が速やかに伸ばされ、主の光が照らされ、闇が退けられ、光の勝利がもたらされることを信じて、祈ることしか、でなく、祈ることこそはじめてまいりましょう。祈ることで促されるところに遣わされ、祈るところから動き出す手と足を用いて、主の正義と公正の実現に仕える私たちとならせていただきましょう。愛する皆さんに主の豊かな祝福がありますように。アーメン。